若林再発見！

若林八幡宮

若林小左衛門が一村を管理し、18 戸の産土神として八幡宮を 1054(天喜 2)年に勧請し奉り、社殿を逢妻川の辺の小高い丘に建てたのが始まりです。1446(文安 3)年、千葉三十郎（後、都築三十郎）が蓮如上人の請によって、石川政康らと共に武州都筑郡から移住し社殿を改築しました。誉田別尊が祀られており、雨乞神輿と大鳥居も特徴です。

向島山浄照寺

開祖は存澄で、1296(永仁 4)年に天台宗のお寺を構えたことが始まりです。江戸時代に無住の時代がありましたが、渡邊家家臣が入寺し再興に努め、さらに渡邊徹鑒が本堂の再建に努め、平成 17 年には本堂・庫裡・書院が、国の「登録有形文化財建築物」として登録されました。今は 1 本ですが、黒松は豊田市の名木に登録されています。

若林阿弥陀堂

起源は鎌倉時代とも江戸時代初期とも言われています。石像座像の阿弥陀様が祀られ、地区の守り仏として日常住民の信仰を受け続けています。老朽化した御堂は、平成 19 年に再建され子持地蔵と一緒に祀られています。若林では毎年 8 月 24 日に近い日曜日に地蔵盆祭りが、行われています。

若林山円楽寺

開祖は本多四郎左衛門親平で、永正の頃（1515 年）この地に開基したのが始まりです。本願寺実如上人より方便法身尊像をいただき本尊としました。その後世代不明の時期もありましたが、寛永 8（1631)年、上宮寺より順慶法師が入寺し円楽寺の再興に努め、中興の開基と呼ばれています。豊田市の名木に黒松と五葉松が、登録されています。

若林古城址

平針街道沿いの要所若林にあったと言われますが、資料も少なく詳細は不詳。16 世紀三河地方は松平氏、尾張は織田氏が治めていました。松平家の家臣石川伝太郎に降伏した安城城の本多政平の子本多四郎左衛門親平、1499(明応 8)年上野山（現在の上ノ山）に、領主として若林城を築き、1504(文亀 4)年には出家し廃城となっています。

明治 32 年　若林地図

若林交流館　TEL:52-3858

自主 G「まっと知ろまい若林」

宮間山不動堂

若林を一望に眺められる高台に宮間山不動堂があります。本尊は厄除不動明王で約 300 年前に作られたと言われています。高さ約 80cm の木彫立像と右に制吒迦童子、左に矜迦羅童子、これら不動三尊は信仰も厚く祈願に訪れる人も多いそうです。弘法太子も一緒に祀られています。

竹陽用水記念碑

明治 40 年頃三和・竹陽の辺りは、狸や狐が住む未開発の山林原野でした。先人達は苦労をして開墾に励みましたが、高台の南部地域は農業用の水不足に悩まされ続けてきました。ため池からの水だけでは十分補いきれず、神田を水源とした竹陽耕地事業が昭和 4 年に完了しそれを記念して（恵を長く伝える）碑が建てられました。

円形分水桝跡

竹中部落（現在の中町）から揚水機で狸山（現在の三和、竹陽）に送られた落ち水を再々利用しました。苦労して得た水を公平に分けるための仕組みがこの桝にはあります。一番上にわき上がった水が丸い筒を下に流れ落ちていく間に途中あけられた穴から外側の水路に分けられて行きます。水田の面積に応じて通路の大きさを調節したそうです。

松欅堂

黒色の特徴ある建物は、建築家として有名な原広司氏により 1979 年に建てられた美術館です。他の作品には京都駅ビルや札幌ドームなどがあり、大工さんにとって難工事だったそうです。オーナーの小林夫妻は、地域文化振興の功績が認められ 2003 年に豊田文化賞を受賞しました。

若林駅

昔の「三河鉄道」は、刈谷―知立間でした。しかし、大正 9 年に知立―土橋間が難航の末営業を開始し、知立駅から若林駅までの運賃は 11 銭でした。開通当初の汽車（岡蒸気）は、若林、八ツ橋の上り勾配に差しかかる途中で止まってしまうこともあり、一旦坂を戻り勢いをつけたり、乗客を降ろして身軽くして登ったそうです。